



甲斐健太郎さん
稲葉直也さん
中原大輝さん

豊岡の力を世界に! 大きな夢に向かうジャンパー

甲斐健太郎さん(41歳) 森



西日本で唯一のスカイダイビング場を経営する甲斐健太郎さん。ほぼ毎日、約4kmの高さからのジャンプを続けています。

19歳の時に米国・マイアミでスカイダイビングと出会って以来、夢は自分でスカイダイビング場を開くこと。30歳で、その夢はかないました。

自由を求める甲斐さんにとって、スカイダイビングは「究極の遊び」。空から見る景色はもちろんのこと「リスクはあるけど、地上に帰ってきたときの喜びや達成感がすごい」

「今の夢は、豊岡市から世界選手権日本代表チームを輩出すること」と話す甲斐さん。現在、4人1組で行う競技・フォーメーションに本気で取り組むチームはほとんどありません。何十年かかっても：と意気込みます。

甲斐さんの下では、6人の豊岡の若者が働いています。「地元」の若者が、趣味を仕事にして、自信を持って長く働ける場を作りたい」と、若い力の育成にも力を入れていきます。

Toyooka Topics —とよおかの“旬”な人と話題—



▲指導を受けながら人形を作る

しろくまくんどこへ?

親子で楽しむ人形劇とワークショップ

10月7日、豊岡市民プラザで、大阪の人形劇団「クラルテ」による人形劇「しろくまくんどこへ?」を開催しました。

この事業は「とよおか家族の日」の関連事業として実施したもので、家族向けの内容とあって、300人以上の親子が来場し大盛況でした。

また、人形劇の他に「人形劇を体験してみよう」と題したワークショップも実施。約20人の子どもたちが参加し、劇団メンバーの指導の下、色紙から人形を作りました。

参加した子どもたちは、好きな色の色紙を手に、一生懸命工作。自分で人形を作ること、人形劇の世界をより身近に感じる事ができたようです。

但州湯島の盆

城崎温泉街の秋の風物詩

9月23日夜、城崎温泉街で第13回但州湯島の盆(主催・豊岡市商工会城崎支部)が開催され、着物や浴衣などをまとった踊り手ら約100人が、柳並木の大谿川沿いを練り歩きました。

江戸時代、同温泉街では盆の繁忙期にふるさとに帰ることのできない芸妓たちが、9月に盆の代わりを楽しもうと、盆踊りを始めたのがきっかけといわれています。一度は途絶えましたが、2005年、当時歌われていた城崎温泉の四季の唄「城崎小唄」に、大谿川のヤナギや湯煙などをイメージした踊りを振り付けて復活させました。

観光で訪れていた青山武史さん(姫路市)は「風情を感じる」と秋の風物詩を楽しんでいました。



▲女踊りは優雅にサクラやヤナギを表現